

清水南のお宝めぐり

福井市清水南小学校

(在田編)

清水南小学校では、十月二十日に全校で「清水南のお宝めぐり」を行いました。地区ごとに行ってみた所を訪問して、地域の方から多くのことを教えていただきました。

在田地区では熊野神社とピアノ教室に行きました。そこで「われ等在田」のことや畑六郎左衛門時能のお話も聞きました。そして十一月十一日の学習発表会では五・六年生が自分たちの地区の宝としてみんなに紹介しました。

熊野神社

熊野神社の階段は、在田の歌の通り、七十二段ありました。

名前の由来は、和歌山県の熊野大社だそうです。

まつっている神様はクスビノミコトです。

今から百二十三年前の明治二十七年十月に今の場所に移転したそうです。

今の社殿は再建されたもので、平成十三年に準備委員会をつくり、平成二十四年から建設を始め、平成二十六年に完成しました。

昔は、公園など広いところが



なかったので神社の周りで野球をしていたそうです。ボールが屋根に当たったらホームランだったそうです。

(感想)

熊野神社で話を聞いて、一番驚いたことは、平成二十六年に再建するために、平成十三年の私が生まれる前から、もう準備委員会ができていたことです。時間がかかったんだなあと思いました。

名前の由来が和歌山の熊野大社だったこともびっくりしました。

ピアノ教室にて

ピアノ教室では、「われ等在田」を作曲した小林年子さんからお話を聞きました。

ある日、年子さんが朝起きると、新聞に「六百五十年祭」を行っていることが載っていたそうです。

それに急いで行くと、有名な作家の人にまちがえられたそうです。(作家の人は来られなかつたそう：)それで、すぐ近くで畑時能についての発表が見られて感動したそうです。それをきっかけに、時能の素晴らしさを曲にしようと思い「われ等在田」が生まれたそうです。

「われ等在田」には、『標高二百九十メートルのしばざり山のてっぺんに畑六郎左衛門時能の城のあとがある。熊野神社から見た、麦やいなほがきらきらしていてきれい。老人も若い人も子ども達も歴史を知ろう。』などの意味があります。

ちなみに、在田の山の上の方にはB二十九と言う戦闘機の来る音を感じる直径二〜三メートル位の穴があります。本来、穴に人が入ると感知するので、年子さんは、外に出てすみれの花などで遊んでいたそうです。少し、危なかつたですね。

(感想)

年子さんが作家の人にまちが

えられたおかげで、作曲家を目指す、「われ等在田」ができたのは幸運だと思えました。また、大きな穴にそんな意味があるとすることも、知りませんでした。お宝めぐりでは浄宗寺で、地域の方々とついに「ふれあい会」を行いました。クイズやビンゴゲームをしたり、いっしょに歌を歌ったりして、たくさんふれあいが出来ました。とても楽しかったです。



畑六郎左衛門時能

畑六郎左衛門時能は在田町の昔の武士です。

南北朝時代に時能は斯波高経と戦いました。

その戦いに備えるために在田山(現在の乙坂山)の頂上に城を築きました。その際に時能は家来に命じて、毎日ふもとの大滝まで水をくみに行かせました。



畑時能の見た目は、とても怖くて、強そうです。刀は二本、大きな牙のある犬を従えていて、目つきも鋭く、さらに金棒までもっていて、当時の人々は恐ろしがっていたと思います。

(感想)

私が畑時能のエピソードで一番に残ったのは、福井県勝山市での出来事です。勝山市にある鷲ヶ岳という山は標高七百九十六メートルもあります。そこで約二十キログラムもある兜と鎧を背負って登ったのは、本当にすごいと思います。私には、そんな筋力も体力もないのでむかしの武士には感心します。在田町にこんなすごい人がいたなんて知りませんでした。ほかにも在田町の知らないことはたくさんあるので、どんどん知っていききたいと思いました。